

# 新調の子どもみこし巡行

## 大館の職短の協力得て完成 単人町内会

大館市川口の単人町内会(能力開発短期大学校(山田浩(松坂敏悦会長)と秋田職業)校長)が、共同研究事業とし

て子どもみこしを製作した。5日、川口神社の例祭に合わせ町内を巡行。小学生らがお披露目とともに大きく声を響かせ、地域に元気を届けた。

化のほか「子どもが減っていくからといって、規模縮小やお金は使えない」という考え方にはいけない」と新調を提案。同校に協力を要請した。共同研究として2017年度から着手。意見交換や検討会を経て、今年4月下旬に完成した。同校は「子どもみこしに係る安全性、耐久性についての実施検証」をテーマに掲げた。スギ材を主に使用し、軽さや丈夫さにこだわった。この日は子どもみこしを巡る川口地区の5町内会が神社で安全祈願。うち単人町内会は約30人が参加した。児童たちは「交通安全」「家内安全」などと書かれた札を配って回った。家の前ではみこしをかついで「ワッショイ」と元気を響かせた。

松坂会長は「新元号を機に新しいみこしが完成。子どもがたとえ一人になっても大事にするという町内会の思いを統一。住民の安全安心、明るい街を目指して取り組みたい」と話した。



新調した子どもみこしで巡行する住民たち(大館市深沢岱)